

第 5 回 予算決算委員会

令和 6 年 4 月 30 日 (火) 5 階 議場	開 会 1 3 時 0 0 分 閉 会 1 4 時 1 5 分
-------------------------------	------------------------------------

午後 1 時 00 分 開会

○委員長（棚町 潤君）

ちょっとこの後、会議があるところもありますので、スムーズに進行させていただきたいなと思います。

今回は、皆さんに予算決算委員会で集まっていたのは、年間のスケジュールを皆さんに御確認いただくことと、あと評価の対象事業っていうものを私と副委員長のほうで、あと各委員長と相談しながら、選択をさせていただいたので、それについて、皆さんに御確認いただいて、対象事業を決めたいと思っております。

あと、もう 1 点、最後になると思うんですけど、評価シートをちょこっとつけ加えましたので、そのあたりも皆さんに御覧いただいて、それが決まったら、順番に評価に入っていきたいなと思っております。

まずは、年間スケジュールを見てください。派手なやつです。

2 ページ目に、3 つの常任委員会のスケジュールをある程度まとめたものを記載してあります。その中で予算決算委員会が一番上の段に入れさせてもらっています。

順に説明させてもらおうと、今日 4 月 30 日になりますので、今日、事業評価の項目を決めさせていただきたいなと思っております。

そこから 5 月に市民、団体からの意見を聴取しながら、7 月 17 日の日に執行部からのヒアリングを行いたいと思っております。

7 月 17 日のヒアリングが終わった後、評価シートを御提出いただきます。評価シートの提出期限を 7 月 29 日とさせていただこうと思います。

7 月 29 日に評価シート提出いただいて、事務局とともに取りまとめをさせていただいて、議員間討議を 8 月 9 日に行わせていただきたいと思います。

例年 2 回、議員間討議行っていると思いますが、皆さんの意見を出し合って、変更点があれば変更していただいて、もう 1 回シートを出してもらおうと。今回はもう 1 回、9 月 17 日に議員間討議をさせていただきたいなと思います。これが予算要望書をこの間に作りますので、それをまた皆さんに御覧いただいて、皆さんにまた御意見頂戴した後に、政策提言に結びつけたいと思っておりますので、議員間討議を今回は 2 回行うということになります。

順調に行けば、9 月議会の最終日、9 月 27 日ですが、この日に政策提言として、書面で市長のところに事業評価書と、あと予算要望書と併せて、お持ちさせていただきたいなと思っています。

その後、秋口は予算決算委員会としては、10 月は特にはないんですけど、11 月に広報広聴委員会

が、この予算要望に関しても含めて、市政報告会か、報告会を行いますので、そちらのほう御協力させてもらいながら、併せて報告をさせていただくということになっています。

12月議会を経て、1月にできれば市長から提言に対する回答をいただいて、2月に次年度へ引き継ぎをして、3月議会で予算要望がどのように予算に反映しているのかというのを確認させてもらって、また翌年に続いていくという形を考えています。

まだ今年始めたばかりなので、まだスケジュール的にずれてくるところもあるかもしれませんが、今の段階としては、このようなスケジュールで考えております。

ということですが、スケジュールについて、御質問がありましたら。

柴田増三君。

○16番（柴田増三君）

評価シート提出の前のヒアリングと説明等の段取りは、もう既に執行部からついているわけやね。

○委員長（棚町 潤君）

ヒアリングの日程については、課長とも話をさせてもらいながら、このぐらいであればヒアリングできますよっていう裏取りはしておりますので、日程はそれではじき出させてもらっていますので、大丈夫かなと思います。

熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

ちょっと聞きそびれたけど、9月11日は、8月9日の議員間討議をどういう形でやるかがちょっと聞きたいんやけど。

○委員長（棚町 潤君）

8月9日については、皆さんからヒアリングを、皆さんから出してもらった評価シートを取りまとめさせていただきますので、ほかの人の評価シートも見ながら、例年のように事業評価を行わせていただくということになります。

事業評価は、8月9日です。

○14番（熊谷隆男君）

8月9日なんですね。

○委員長（棚町 潤君）

はい。それを受けて、9月の次の議員間討議までに市政要望、要望書をまとめていきますので、政策提言書をまとめていきますので。

熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

議会の開会中は、9月17日に委員会として開くわけやわね。

○委員長（棚町 潤君）

はい、委員会として開きます。

○14番（熊谷隆男君）

このときには、評価をするやなくて、提言をまとめるというのに使うということ。

○委員長（棚町 潤君）

評価も9月17日で皆さんに御覧いただいて、これで出しますよというのも出させてもらいますけど、それプラス、今年は予算要望も併せて入れたいなと思っておりますので、それも9月17日の日に皆さんに御確認いただいて。

熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

9月17日に議員間で討議すると。そうすると、その場でこれから提言を作るというわけなので、その場で提言ができるということはさ、それやってもやらなくても、提言することがもう決まるということにするんやないの。

だからやる必要がないやん。

○委員長（棚町 潤君）

一応、今回、評価シートを御覧いただくと、予算の来年度予算に対する要望なんかも各項目がつけ加えられておりますので、それも踏まえて、8月9日の日には、皆さんに御提示させてもらおうと思っております。なので予算のことに関しても、要望に関しても、この8月9日でもう話ができるのかなと思っておりますけど。

○14番（熊谷隆男君）

議運の委員長やら議長、どう思われるか知らんけど、開会中のね、常任委員会である中での事業評価ということで今までやってきたわけやけども、今で言うと、開会前にもう事業評価しちゃって、それで提言っていうことよりは、何が言いたいかと言うと、やっぱり予算決算の委員会を議会中に開いて、開会中に開かれた予算決算で、正式な事業評価をするという、議事録に残していくということ自体が、何となくどういう議論があったかを。そういうことのほうが重みを増すとは言わんけども、正式な議会開会中の議論であるということの意味合いがあると僕は思うわけやね。なので、答えありきで委員会しゃんしゃんで、議会が始まったら、前回8月9日にやったことのとおり、皆さんよろしいかっていうようなことでね、だけしか残らないようなものっていうのが、何となくこの議会軽視に当たるんじゃないかという感じがするんやけども、提出するやつを、決めたやつを聞くなんていうことは、後でもできるので、報告はそれはその後で結構やけども、やっぱりそこで議論をするということが大事かなということが、議会開会中で普通の常任委員会も普通に開かれる、審議するという中で、形を入れるというのがいいような気がするんやけどね。

○委員長（棚町 潤君）

今の御提案ですと、やっぱり議事録に残す、議会中の委員会にて、やっぱり公の場で議論を重ねて作っていくのがいいという御意見だったのかなと思っておりますけど、できれば9月17日の、やっぱり予算決算委員会で、そういう意見を頂戴しようということになると、一番は、最初に決めた目的が9月27日の政策提言だったので、若干そこに間に合わなくなるかなっていう恐れもあるので、このようなスケジュールをつけさせてもらいましたけど。

熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

9月27日の政策提言っていうのは、例えば事業評価をした項目についての政策提言を意味しとんのか、分かんねんけど、そういうことやなと思っとんのやけど。

そうすると、それを予算に対するとするか、新しい事業に対する政策提言っていうと、イメージがわくんやけど、事業評価はこれがよろしいかと、決算は認定するのかどうかという議会の中で、次のことをね、別にその議会に言わなくても、政策提言はね、評価は評価で、これは駄目だと、これはいいという評価はね、お伝えするべきで、この評価を示した後に、新たなる政策提言をとというイメージはわくんやけども、そしたら事業評価をやるということ自体を全部、政策提言に結びつけるためのものとする、そうすると、委員長が選ばれた一覧がね、評価項目は、必ず新しいものの一覧になって、評価するべきものということになると、非常にこの、その議論なくして、そこを決めていくわけやけども、そういうことの重みが重なるということだと思うんやけど。果たしてそれ、ええことかなと。この物言いたいやつだけを、先の予算に物言いたいやつだけを事業評価の項目に挙げていくというようなイメージでさ、そうすると、いいことも、ほめてあげる部分もあったり、実際にいい事業で、もっと予算つけてあげてよっていうのもある場合もあるわけやから、そうすると、そういうことと言うと、何となくこう予算だけをとっていうことを、悪いって言っとるわけやないけど、まずは事業評価、決算認定をするかどうかの1つの項目のチェック項目として、その事業を挙げるということのほうが、やることの意味合いとしては明確やないかなと僕は思うんやけど。

○委員長（棚町 潤君）

今のところ、スケジュール的な話をさせてもらおうと、やっぱり事業評価をやった後に、予算要望を作っていく。評価結果を受けて作っていく、その時間があるのであれば、やっぱりそうするのが理想かなとは思っていました。

熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

僕、評価のほうはね、比較的用意が行われた事業やもんで、1週間なり5日なりででも、1日でも考えれば評価できると僕、思うわけ。政策提言となると、今度はそれ練らないと、これということと、誰かは思うけど、僕そう思わへんわっていうやつを委員会の総意として出すのかと。多数決で決めて、これはもっと増額せえよっていうやつが6割で、4割は今までもええやないかでも増額で議会の意見として出すのかというようなことっていうのはさ、その点がやっぱり、こここそ議員間討議が必要で、それを経て、もう総意でなければ、やっぱり僕・・・委員会でも難しいのではないかと。

○委員長（棚町 潤君）

施策については、やっぱり今年、各委員会がテーマを持って臨んでおりますので、そういった新しい施策へのテーマ、提言をするっていうことになると、各委員会で、やっぱりやってもらうのがいいのかなというのは、私の中では思っているところです。

○14番（熊谷隆男君）

これはさ、予算決算委員長が言うことやなくてさ、議長なり、議運で諮るべき話であって、ほかの委員会のことはそう心配せんでもええやん、あんたが。

○委員長（棚町 潤君）

そうかもしれませんね。

小木曾委員。

○11番（小木曾光佐子君）

事業評価をやるっていうための準備の話をしているんですけど、何か政策提言をするためにやるとしか聞こえないので、事業評価のことをしっかり今日はやれることを考えていただきたいんですけど。

○委員長（棚町 潤君）

奥村委員。

○3番（奥村一仁君）

事業評価ですけど、昨年度、皆さん頭に入ってると思いますけど、昨年度の引き継ぎの中で、現状の事業評価では予算要望につながらないので、何とか予算要望できるような形を考えていきたいと思いますということで、皆さんの総意でまとまったという記憶しておりますけど、それを受けて、今回の棚町委員長がこういうことでどうかというふうに提案をしてくださっているので、それ、今回はこのやり方でやってみてもいいんじゃないですかね。

先ほど熊谷委員おっしゃったように。

○14番（熊谷隆男君）

おれ総意やないもん、おれあのとき違うこと言ったもん。

○3番（奥村一仁君）

そうですか。

ただ、引き継ぎ自体は議運を通ってきているので、総意じゃなくても、決定されているということとで受け取っていましたが、そうでもないということですか。

○14番（熊谷隆男君）

通ってきとる。

○3番（奥村一仁君）

議運は通っています、はい。そのような経緯です。

○委員長（棚町 潤君）

熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

あのときの意見、思い出してくれると分かるのは、予算要望をすること、政策提言をすることと事業評価というものの、やるのが悪いと言んじゃないに、立ち位置は別にしたほうがいいんじゃないかと。ということは何かと言うと、事業評価で5項目を挙げて、10項目を決めてね、これを政

策提言ということになると、挙げるためのやつで選ばないと、政策提言できなくなるというような仕組みよりは、それ別にしてでも、ほかでもこういう政策、この新たなものが出てきたやつを提言でやろうとしたら、それは事業評価の中に入れなくて、事業評価は事業評価でして、その中で出れば政策提言すればええけども、これは予算、政策提言の会議を別でやっていくほうがいいのではないかとことを僕言った覚えがあるんやけども、ここのところも言っとるけど、別ってというのは、引き続きでもええんやけども、これはいいか悪いか、いい事業だったかどうかの、過去にあったものの、去年やったことの事業を精査をして、評価をして、それでこれよくないんじゃないまではいい。次の政策提言をするところはね、例えばこれじゃあ、もうちょっと事業費を上げてやったらどうやと。これはどれぐらいなのと。少しでも上げてくださいという表現だけでええのか、200万円ぐらいつけてやったらどうですかというところまで踏み込んで政策提言をするのか。これはこれやから廃止したほうがええって言うのか、予算縮小したほうがええって言うのかっていうことを政策提言するときにね、事業評価の中だけでの議論でね、多数決で決めてええのかっていう、これからのことを言いよるんやけど、おれはそのためには、やればええんやけども、予算に対して提言をすると言わんけど、まずは評価をして、市長にもあなたが出したように、この事業はよくないですよと、大多数の人が反対でしたよって、中には賛成する人もありますよってということも、1人の意見を尊重するとすれば、必要やと思うわけよね。それをした後で、予算を、政策する上での予算への提言は提言で、みんながこんな評価しとるんやからこれ、ちょっと考えましようっていうのをピックアップしてくれるなり、ほかで事業評価以外のやつでも、政策提言があれば、予算に関する。それはそれでやったらええやないかって僕は思うんやけどな。そうすると、きっと棚町委員長がこれ慌てるのは、ここでやらないと、10月にやる算定のところに入ってくる、執行部のやつを次年度に影響を与えないと。

ただ、本当にそんな軽いスケジュールに合わせてね、本当に恥をかくとは言わんけども、本当に審議をして、予算決算の中でね。上げる、下げる。保留する。減額する。増額する。推進する。やめる。そういう議論をしないと、単純に、これはもう減額したほうがいいんじゃないですかっていう提言でね、はいはいって、それじゃあ20万円減額しましょうって、そうなるかどうか分からんけども。そういうことっていうのは、慌てても意味がないような気がするんやんな、おれは。そやし、このもともとの事業評価の選ぶやつで言えば、最初のころは、終わってしまうものではなくて、継続する事業ってというのが前提のところであるので、仮にこれを練って、年をまたいで1月に出したとしても、あともう決算の認定にこの行政のほうで6月過ぎると入ってくる。このときに見直しをかけていくのの参考にしてもらえればええわけやから、事業評価をする上で。来年6月やって、それで9月にはもう大体、もう仮算定して入っていったらうので、慌てれば、向こうはもう半分ぐらいは算定が済んだもの、仮のやつをそこで提言をされて、それに影響を及ぼす努力をするかどうかと僕は思うところ。本当のことを言って。

○委員長（棚町 潤君）

それ言われちゃうと、政策提言のね。今回やっぱり執行部のスケジュールも考えた上で、やっぱ

り10月に予算編成方針が出てきますので、やっぱり議会の意見は予算編成方針の前に入りたいなというのが僕の思いです。そこから予算編成方針が10月ぐらいに出て、そこから各部が予算を組んでいくんですけど、最終的には市長決裁が1月にあるんです。なので最悪1月の市長決裁のときに要望出される市議会もあるんですけど、やっぱりシナリオを考えて、考えると、やっぱり9月の段階で出させてもらって、10月の予算編成方針に盛り込んでもらうというのが理想な形かなと思ったので、やっぱりこのスケジュールが適当かなと思って、組ませていただいております。

このスケジュールを外れて、これとは別に、予算の要望を作るっていうことになると、スケジュールに合わなくなってくるので、どうしても次年度への反映というのは、難しくなってくるのかなというのは思っています。

一番ここの中で大事なものは、市長からの回答だと思っているんですよね。今まで事業評価を出しましたが、その回答ってというのは、もらった覚えがないとか、僕の中では見た覚えがなくて、やっぱりそこで市側の回答をもらうっていうことが大事かなと思ってまして、それによって少しでも予算に反映、僕らの意見が予算に反映できるといいなと思っておりましたので、それで何とかちょっと難しいかもしれないけど、このスケジュールでやりたいなと思ったのは、僕の委員長としてこう、やっぱりリアルにこの予算要望を反映させたいという思いからこう組ませてもらったんですけど。

熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

よう気持ち分かるし、全然反対しとるわけやないんやけど、もう何年か前かな議運の委員長で茨城の守谷へ行っただのね。守谷市で、あそこは事業評価がすごい。それでもう1つは、会派主義なんだね、会派会議が中心で、会派対抗のような話になるわけですね。あそこで同じような力がこう、あるわけ。そうすると、片一方の会派が事業評価をした後に別個でやるわけやけど、予算出るときと出んときがあるわけ。会派から、これは提言してほしいっていうやつを持ってくると、ほかのところでは、全く真逆な評価をもうするわけ。そうすると、そこで議論があったりするわけ。そのときには駅の駐輪場の拡充っていうような、あれやったような覚えがあるけども、それに対して、すごく広げたほうがええという提案と今のところをきれいに整備したほうがええっていうような提案であったりと、こうするわけ。予算も全然違ってくるわけやけども、それを揉めるに揉めてでも、十何回、会議開いて、年明けに拡充っていうやつを出しましょうっていうのが会派間の討議ですごいやるわけやよね。そのところが会派代表なり、全員でやって、それである程度の導き出したものが議会の意見として、提言にして、それが昨年やっと思意見が通ったんですよ。それにはまだ1年かかるわけ。予算、もう4月に間に合わんから。それでも答えが出たと。それを決算認定のときにそれを評価するわけよね、やってくれた。そういう継続で、単年会計で、議会の単年の役職であるけども、次のところとか自分の手柄にならんものとしてでも、やっぱり継続していくものにならないと、1回やって試してみてどうっていうことを、この任期中に答えを出そうとすると、何となくこう最初に答えありきで回数重ねましたよ、討議しましたよっていうことにならんかなと。せ

っかくいい提案なので、何回もむきになって言うわけやないけど、議員間討議っていうことであるのなら、みんなこういう会派の形もいびつの議会であるので、議員の意見として、自分の意見がみんな言えるように、まとめといて、これよくないで、こうしたらどうやねんって言って、ええええって言って、こう、しゃんしゃんってなるような結果が大事なのか、やっぱりそれどういうことか審議するということというのを調査、研究するということが大事なような気もするんやけどな。事業評価で実際、行政が出したヒアリングだけのものを持って、答え出していくというほど、この机上の話だけでええのかなと。どんな事業でも、例えばものを見たり、いろんな意見を聞いたりっていうことも必要なことってあるんやないかなって、おれはそういうことまで言わないと、出す提言に重みがないんやないかなと。

ということで、あと今度ヒアリングの際にしても、隠れるものが出てくるようなことにつながるっていうのは、あんまり望ましいことじゃないと思うわけやね、今後。やっぱりやるからには足据えてしっかりやるほうがええんやないかな。僕、皆さんそれでいいって言えば、委員長案でやってもらったら結構やし、何も思わんけど、今日は委員会やから、自分の言いたいことも議事に残るやらで、言いたいことを言いたるわけやけど、とりあえず僕はそう思う。

○委員長（棚町 潤君）

小木曾委員。

○11番（小木曾光佐子君）

さっき市長からの回答っていう話ありましたけど、市長からの回答はないんですけど、今までは。事業評価した部署から私たちが評価したことに対して、そうじゃない、ものが言いたいって言って、2か所か3か所出たことありましたよね。その経験じゃなかったですか、今まで。そののも大事だし、今この後に話が出ますけど、この評価するものの中から政策提言をしていかなくちやいけないということになるわけじゃないですか、今の状況だと。どういうふうに私たち事業評価していくのか、分かんなくなっちゃうけど。

○委員長（棚町 潤君）

成瀬委員。

○12番（成瀬徳夫君）

私、議長じゃなくって、私個人の意見でいいですね。

○委員長（棚町 潤君）

はい。

○12番（成瀬徳夫君）

私が思うのに、事業評価は事業評価として必要だと思うんだけど、やっぱり政策提言なんで自由にできることなんで、これ別個にするほうがええと思うんだわ。考え方を。だから今この事業評価がこう挙がってきているでしょう、この中から政策提言しようっていう、もう筋書きができてるわけ、考えるとね。だからもうできてる、もうやれるわけだわ、ここで。これに対してどうなのって、みんなでやりゃあいいわけだからさ。だって事業評価は事業評価としてきちっとやりゃあいい話で

あって、別個でやればええと思うんだ、これ。一緒にやろうとするもんだから、このきちきちになっ
てきちゃうと思うんだわ。だから皆さん頭の中では、もう事業評価イコール政策提言っていう形
に、なっちゃってるんで、時間が足りない、足りないっていうふうになってくるんだけど、政策提
言はいつでもできる話なんやね。だから政策提言やろうとすれば、これだけ別個にやって、また事
業評価は別にやっとけばええわけよ。だから政策提言だけは、まずは別でできんことないと思う
んだけど。

○委員長（棚町 潤君）

熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

今言われたことは一緒のようなことやけど、ただ事業評価をするもんで、間違ったとこを直す、
政策提言ができるっていうこともあるわけよ。予算が出た時点では、うまく執行できるんかできひ
んかということでは分からんもんで、それについて、物言うことって、なかなか難しいと思うわけ
やね。これからやるやつについて出されたところは。

成瀬委員と同じところは、事業評価は事業評価、政策提言は政策提言でやったほうがええ、これは
委員長に前からおれは言いよるけどね、それを日程だけのことで言うのであれば、そんなにそれに
合わせなくても、政策提言はできるんやないかなっていう。政策提言っていうのがなんで早くやら
ないかなっていうやつは、予算に反映せないかんっていう頭やと僕は思うわけやけども。そのこ
とっていうのが本当に相手を説得すべき調査、研究をやって、単純に困ってる人がおるで、増やし
てやってっていう話ではなくてね、どれぐらいを増やすのが的確か、どういうことにするかってい
うやつをやろうとすると、この短期間に出て、見て、すぐに政策提言っていうのはこう、やっぱり
別々でやっちゃあいかなのかね。

○委員長（棚町 潤君）

事業評価については、今までどおりスケジュール組んであるので、ヒアリングの時期も決まっ
ていますし、評価はできると思います。それをどうやって要望につなげていくかっていうところ
ですけど、並行してやっていく思いでしたが。

○14番（熊谷隆男君）

今言われたみたいに、予算で言うやつをもうこれ以上言ってやろうと思って事業評価にかけ
るということになるとね、事業評価を選ぶ、選定する項目を。これって前はそれこそ、今な
ったばかりの委員長が選んで出してきたんだろうけども、この出す過程のやつも、こっ
ちもおれらも精査せな、委員長の一存で決めて、これに決めましたっていう、重くなる
わけやわな、この予算に反映させるっていうこと言えば。かつては、今までなるべく
いろんな事業を事業評価しましょうっていうやつが今度は予算に反映するやつを
選びましょうってなったら、こう意味合いが重たいでね。何が、何をもってこれ
予算に文句があつてと言うのか、というのかをお聞きしないと、各委員会から
出すとしたらよ。何を出しとるかもまだ全然知らんねやけども。

○委員長（棚町 潤君）

奥村委員。

○3番（奥村一仁君）

さっきのスケジュールの政策提言の9月27日が決まってるからっていうふうに今、委員長がおっしゃったんで、このスケジュールから逆算してるように思われたかもしれませんが、本来はちゃんと上から作ってきています。上からってというのは、去年の引き継ぎがあって、それを各委員長が引き継いで、各委員長でテーマを決めて、それを委員会で決定して、そのテーマに沿った市民団体聴取をして、そのテーマに沿った研修、視察をして、テーマに沿って事業選定して、ヒアリングをしてというふうに、ちゃんと上から順番に作ってきています。

熊谷委員おっしゃったように、やっぱり政策提言、予算要望的政策提言だと思うんですけど、非常にやっぱり重いので、簡単にぽんぽんぽんってやってできるものじゃないと思ったので、やはりこの委員長、皆さんなったすぐから議論をしてきて、テーマを設定して、市民の意見を聞いて根拠を作って、自分たちも研修、視察して、勉強して、それでその事業を評価してっていうふうに、こう根拠を集めて、なるべく政策提言とか予算要望に反映できるような仕組みを作って、この予算決算の委員長がまとめてくださっているというのがあるので、確かに後ろから作っているように見えるかもしれませんが、やっぱりちゃんと上から皆さんで考えて作ってきていますので、その辺のところを理解した上で、この提案と言うか、やっぱりこれ熊谷委員の意見お聞きすると、よくするためっていうふうに言っているんで、すごいありがたいんですけど、ありがたいって僕が言える立場じゃないんですけど、やっぱり一番は事業評価を評価するだけで終わらずに、何とかして、この予算要求とか政策提言につなげたいっていうところから作ってくださっている、作ってきているので、その辺を議論の本質として、議論していただけるとありがたいなと思っています。

以上です。

○委員長（棚町 潤君）

樋田委員。

○8番（樋田翔太君）

その後の事業評価の項目とかも見ましたのですが、この評価したい項目を見たときに、これに対して、そこまで深い議論ができるものか、全部委託してるものなのか、こぶし教室のほうも、じゃあどうしようってところが、そこで作れない、作りにくいものであるな。先ほど事業の評価と政策提言は別にすべきだというね、意見が確か出てると思うんですけども、例えば事業評価した項目しか政策提言ができないのであれば、過去にやって終わってしまった事業、でもこれは求められたからもっと継続するべきだというやつは、評価することすらできないし、提案もできないですよ。これはたまたま予算がついてるからやってただけです。

でも、これは本当、この市に必要なだから続けるべきだと、市単でもやるべきだと。そういったことも言えなくなってしまうので、せつかく政策提言をできるような項目を起こすのであれば、各常任委員会に振ってもいいと思いますし、その中から幾つか項目を挙げて、これについて予算要求を

もっとしていべきだっていうやつをやるべきと思います。

なので、事業評価自体はやったことに対して、その評価をかけると。それは大事なことで、何でも9月にやっていくかって言うと、9月議会で決算をするもんですから、その中でやっていたと。それを前倒しするっていうのも、ちょっと自分の中で腑に落ちてないところでもありますし、ただ事業の評価も必要でありますし、政策提言も両方必要なんですけども、そこに絡めるとなると、やっぱり事業の選定が今のこのやり方じゃあ、ちょっとまずいと僕は思います。

○委員長（棚町 潤君）

今回、今もう次のところへ行っているんですけど、選定については、やっぱり各委員会がテーマを定めていると。テーマに定めて、調査、研究をしていくっていうことでしたので、予算的にテーマに沿ったものをピックアップさせていただいております。

なので、2つの委員会のテーマに沿って、2つずつ事業をピックアップさせていただいた上で、予算委員会として、独自で2つの今、瑞浪市にとって必要だと思われる事業について、2つ事業をピックアップさせていただいています。

その中で、確かにここの6つの項目からもれるような事業というのは、出てくると思いますが。

○14番（熊谷隆男君）

いや、これ今、樋田委員が言った事業を見るとさ、予算決算委員会は金のことの、議会でチェックするところが一番大きいところでもあるわけやけども、この予算を見て、予算決算を見て、チェックする、監視機能を働かすというのはあれで、今逆に言えば、各委員会はさ、常任委員会っていうのは、1年のテーマを決めて、このことについて研究しましょうということではあって、事業をうまくやりましょうと。これは逆に言うたら、予算から離れた部分の適切に行われとるか、そごがないか、もっと活動をしているところの提言ができないかと。これはむしろそれで言えば、予算決算を使わなくても、各委員会がね、委員長が政策提言に結びつける活動をしてくれりゃあええと僕は思うわけね、金にこだわらず。だから教育委員会と議会はさ、行政部門で言うと、別組織になるわけやから、教育の内容の中に関してのことっていうのは、勉強のほうの話のことについてっていうのと、触りにくいところあると思うわけやね。

予算も、例えば事業自体が国の県教委から来とって、こういうことにしなさいよっていうものであったらね、それって市で単独で起こした働き方改革なんてさ、日本で言いよるやつでさ、先生の働き方って、先生は異動するんやからさ、瑞浪市だけが違うなんていうことって考えにくいんやない。ほんでおれ、それにお金のつけ方も違ってくるよっていうことって、なかなかこれは反映しにくいと僕思ったりするわけよ。そういうことは提言の中で委員会がすることには分かるけど、お金に絡めてそれを予算決算で言おうとするっていうことは、非常にこれ、みんなで勉強してって言っても、その中でそうやないっていうぐらいしか、僕もよう言えんねんけどさ、詳しいことが分からなくて。これ本当にどういうことなのかを知ったり、あれするっていうのにどれだけこの調査しないと、これ評価と言うか、提言できないだろうっていう、思うわけよ。このそれ自体は常任委員会の委員長がしっかりやってくれるしさ、ないというふうにおれは思うんやけどな。予算決算で扱う

べき市の市単でやっとなるような事業であるとか、そういうものでないと、なかなかこの言っても、市でオオケーって言うか、反映することってできないんじゃないかな。

○委員長（棚町 潤君）

成瀬委員。

○12番（成瀬徳夫君）

今、私も熊谷委員が言われたこと思ったんですけども、やっぱりこう、お金のことは確かに予算決算委員会でやってるんだけど、政策に関しては、やはり各委員会のほうから出てきてるやつをこれ並べとるわけなんだから、これに対して、やはり提言するっていうんだったら、そら各委員会から提言してもらったほうがそれいいなと思うんだけど。そのほうがはっきりすると思うんだけど。お金の、だから各委員会から出てきたもので、お金のことが関係するんだったら、お金のことは、このお金のことを委員会のほうでやってもらっても構わないと思うんだけど。予算決算でやらなくたって。

○委員長（棚町 潤君）

当然、予算決算でどこまでできるかっていうことを考えたときに、政策的な提言はなかなか予算決算委員会ではしにくいなと思っておるところです。

その中で、やっぱり各委員会がテーマを持って、調査、研究していく中で、やっぱり事業にはそれにひもづいた予算が必ずあるわけで、それについて、予算面から僕たちも調査、研究できるようにということで、各委員会のテーマに沿った事業を評価対象項目とさせてもらっております。

各委員会は、やっぱりおのおの政策提言されるっていうことを伺っていますので、予算委員会としては、このピンク色で示してある事業に関して、調査をして、予算要望に結びつけていきたいなとは思っておるんですけど、そういう思いで、この項目は選ばせていただいております。

○12番（成瀬徳夫君）

ということは、全然別なことを考えているっていうこと、各委員会は。この今ここに挙げてあるあれと違うことを。

○5番（柴田幸一郎君）

テーマに沿ったものは挙げてあります。

○12番（成瀬徳夫君）

そうでしょう。同じことをやるんでしょう。結局。

○5番（柴田幸一郎君）

予算的なものと委員会は、うちとしての委員会のテーマに沿ったものが挙げられていて。

それでその中の予算的な部分については、予算委員会が考えるというふうにとらえていただければかなと。

○14番（熊谷隆男君）

そんなふうに分けられるのか。事業は各委員会、お金のことは予算決算委員会となってしまう。

○12番（成瀬徳夫君）

それは無責任過ぎると思うけどな。だからこの項目に対したら、この項目で、各委員会で練った結果、これぐらいのお金が必要なんで、要望しますよっていう、こういう形のほうがいいと思う。すっきりすると思うんですよ。いや、お金の話は予算決算委員会にお願いしますって、ちょっとおかしいわ。

○委員長（棚町 潤君）

やっぱり予算決算委員会が、やっぱり独自である意味っていうのは、やっぱりお金のことについては、やっぱり重要なことだという中で、別途判断するということだったと思うんですけど。

○14番（熊谷隆男君）

柴田委員の言い方でやね、僕はいい意味に聞くとすれば、委員会で支援員の派遣事業をやりますよと、こうなる。そうすると、例えば学業、これお金が足りんやないよって、必ずお金の話は委員会でも出るわけよ。

ただ、これについては、こういうことやから、お金、やっとなことは間違いないけど、お金が足りないやということであるのなら、それは予算決算で行きましょう。

ただ、足りてるのか足りないのか、委員会では必ずしないと、議論にならんもんね。そういうことがあって、予算決算っていうことの道筋はね、考えてくれないと、議論がしにくくてさ、話しよったら、これは予算決算の話やで、するなよと言われても困っちゃう。何でも自由闊達に話をして、その中で反映してもらおうっていうことにしていかないと、何となくこう、すみ分けをするという話やなしに、やっぱりどっちの意見も参考にしてもらわないかんっていうことも思うんやけど。

○委員長（棚町 潤君）

すみ分けをすると言うか、僕の中では、もう予算委員会が各委員会のサポートをするっていう感覚でいるところなんですけど。ヒアリング。

柴田委員。

○16番（柴田増三君）

あくまでこう、それぞれ委員会からテーマを掲げられて、このテーマに沿って今回取り組みますよという話の中から、それに沿ったような形で、事業評価を、項目を選ばれたということやね。

そやけど、必ずしも今、問題になってる部分っていうのは、政策提言がありき、そしてそれに基づく予算提言があるというもとで話をしとるだけで、これ実際に出てきたら、それに何とか予算措置がするようなものがあれば、それに結びつけていきましょうっていうだけの話であって、今回もこの中で政策提言、必ず政策提言、これやったら出るかと言うと、そうだけじゃないし、ほんでその後ひもづくところのこれに基づいて、必ず予算申請せなあかんとか、そういう問題ではないもんで、あくまでこの出てきた部分のテーマに沿った中の評価は評価、提言できるような、政策提言ここに結びつくようなものがあれば、それ政策提言していったら、かつそれに予算づけが必要な部分があるような形なら、それでやっていきやあいいけども、たまたまここに、予算づけに必要なタイムスケジュールからいくと、ここでこうやらなあかんっていう部分があるもんで、委員長そう出しちゃっただけの話で、全てありきで僕は思っていない。

○12番（成瀬徳夫君）

それは違うでしょう、委員長の考え方と。委員長は最初からもう予算を、お金を動かそうとして
いるわけなんだから、柴田委員の言われたことと違うと思うよ。違う、そうじゃないですか。違う
でしょう。おれそう思うけど。

提言をつていうのは、そういうお金を動かそうとするんですよ。

○委員長（棚町 潤君）

柴田委員。

○16番（柴田増三君）

動かそうとするということよりも、もしそうであるとすると、委員長は既にここに予算づけたい
とか、そういう希望があるから、そういうことはない。

○14番（熊谷隆男君）

いや、柴田委員が言われることが正しいことなのは、みんな違ったら、何も問題がなきゃあやる
必要もない話をしとる。

でも、出たときのために作っとなきゃいけないとてということがあるわけ。急に出てきたら、
ほんならどうするのとなるもんで、そやから先もってこういう政策提言のあれを作るときましよう
ということやというふうに思うわけやけど、おれはいいことやけども、もうちょっと議論をしない
と、評価をしたことがすぐそれで提言につながるということではなくて、やっぱりその中が詳しく
もうちょっと調査しないといけないんじゃないか、議論しないといけないんじゃないかということ
を思わへんか。

ほんで、それであるのなら、予算提言と事業評価は別のものにしたらどうやっていうこと
の感覚としてね、それを採用してもいいんやけども、それを思うのは、これは委員長には冗談で
言った、聞いたかもしれんけど、9月でもうこれやって、10月でやると、予算決算委員会って
言ったら、12月の補正、3月の予算やるだけやけど、そうすると、予算決算委員会っていうのは、
もうそのときには、3月は次のときになっていっちゃうからね。そうすると、あと半年ぐら
いはやる活動ってほとんどなくなるわけよ、9月が終わると。逆のことを言うと。だから
おれはそこから予算を始めてもね、予算に対する、次年度予算やね、1年先の予算につ
いての提言を事業評価もしたことも含めるけども、ほかのことでも議員提案を求めて、
それで審議をして、それから議論や、ましてやもう1回ヒアリングをしてもええわけ。
予算提言に対するヒアリングという名目で、11月、12月でやると。1月、2月でま
とめるとか、もうフルの活動になっちゃうんで、年寄りには偉いけど。そうすると、
何となくこの流れとしては、平坦な気がする。

○委員長（棚町 潤君）

おっしゃること、すごくよく分かって、僕もきゅんきゅんのスケジュールの中で、
予算要望をしなきゃいけないというのは、当然把握しています。

なので、9月、10月とか、秋口は、やっぱりその次の年の調査をするって
いうことで、その調査をする時間を各委員会でお話する中で、設けると。それを次年度に
反映させていくっていう、そ

ういうルーティンが作ればいいなと思って、スケジュールは作らせてもらいました。

なので、今年はちょっときゅんきゅんなスケジュールになるのかなと思っていますけど、やっぱり来年度は今年の秋口から調査、研究して、来年度にまた予算要望できるような調査を引き継ぎしながらやっていって、9月に要望するっていう、やっぱりそういう流れを作るのが大切かなと思っておりまして、今年は割にきゅんきゅんなペースになりますけど、来年度以降のことを考えると、このペースでやったほうがいいのかなと思って、スケジュールは組ませてもらっています。

○委員長（棚町 潤君）

樋田委員。

○8番（樋田翔太君）

何で当初予算だけにこだわるのかが分かんなくて、例えば年度内に執行される予算のうち、増額が必要であれば、別に補正をかければ別に、分かります。

○委員長（棚町 潤君）

分かります。

○8番（樋田翔太君）

だからそこに間に合わせようとするだけで、きゅんきゅんになってるんだったら、別に6月で補正かけるために動いたって問題がなくて、最終的には我々議決する権利があるので、議決、これは求めたものに対して達していない、決できないという、強い意見を出すことも最終手段として持っているわけじゃないですか。だからそこまでのものを持つてのに、何かそこに、何か査定に合わせてそこに持っていかなきゃいけないっていうロジックに持っていかなくても、予算が必要だから、じゃあこれは来年度中に補正で必ず出してくださいとか、そういうことまで考えることはできるはず。だからこの向こう側のスケジュールに合わせて、こっちは動く必要があるわけじゃなくて、こちらがいつまでにこう必要だから、じゃあこれで半年分は持つだろう。だが、この後半にはもっと増額してやってほしいというようなことは言えるはずやし、あと各常任委員会をもっと使って言うと、言葉がよくないですけども、各常任委員会から提言を出していただいて、それは別、事業評価と政策提言は、やっぱり二本立て、別にやっていくべきかなというふうに思います。

予算が必要だから、最終的にここに持ってきて、全員一致でそれをじゃあ提案を出しましょうということになるかもしれないですけど、本当は各常任委員会だと思います。

○委員長（棚町 潤君）

小木曾委員。

○11番（小木曾光佐子君）

さっきも各委員会から出たものをここに出してきたっていうふうにおっしゃったんですけど、総厚学のほうでも正解はさきエールポイントのところが出ていましたよね、それ数字だけだったんですよ。参加者の数字が増えたか減ったかみたいな会議の中で、さきエールポイントについても、各地域で講座を開いたから増えたんだっていうところまで委員会でやっていますよね。それを評価対象にしたいっていうふうに委員会でも話なんかは1つも出てないんですけど。

○委員長（棚町 潤君）

テーマにはしたい。

○11番（小木曾光佐子君）

テーマ自体は聞いていますけど、評価するのに、委員長が代表で決めたっていただけなんじゃないですか。委員会でこれって話出ていますか。よそのところも。

○委員長（棚町 潤君）

大久保委員。

○10番（大久保京子君）

各常任委員会で1年間のテーマを決めるんだってということでね、そのテーマが決まったと。それに関連する事業がここに挙がってるということですね。ここに挙げた事業、テーマに合った、このここに挙げた事業を決めたのは、委員会で決めましたっけ。

○委員長（棚町 潤君）

テーマは決めました。

○10番（大久保京子君）

委員長が出してきたんですね。

○委員長（棚町 潤君）

僕が出したってことです。

○10番（大久保京子君）

あなたが出した。

○委員長（棚町 潤君）

はい。事業強化項目として出してる。

○10番（大久保京子君）

各常任委員会の年間テーマが決まったことに関して、予算決算の委員長がそれぞれに値する事業を挙げてきたと。

○委員長（棚町 潤君）

事業をピックアップさせてもらって、そのテーマに関係する事業をピックアップさせてもらった上で。

○10番（大久保京子君）

なぜ常任委員長じゃないんですか。

○委員長（棚町 潤君）

と言うか、事業評価の項目は、予算決算で決めるのかなと思っていましたけど。

渡邊委員。

○9番（渡邊康弘君）

熊谷委員や成瀬委員からもあるんですけど、事業評価と政策提言は2本の柱で走らせたほうがいいのかなっていうのは今の皆さんの御意見だと感じています。

確かに、自分が予算決算委員長のとときに奥村委員に、この事業評価から次年度の予算につながる流れを作ってほしいというのは、申し送りであった記憶もあって、ただ短期間の半年でできるものではないっていう、委員長が言われている1年を見据えてっていう流れを作っていくっていう意味では、そうなのかなということを感じています。

ただ、テーマの選び方っていうのは各委員長、その都度、その都度ですし、今回のときもそうですし、この前のときに各委員会におろして聞くっていうやり方は、昔もあったんですけど、その手法を取られるのは委員長がどういった委員会運営をされるかっていうやり方なので、今回はテーマに合わせて選んでくれたのかなっていうのは、感じています。

事業評価に関しては、こうやって進めていくっていうのは、1つのやり方ですし、前回、議会運営委員会の視察で、政策提言につなげるっていうところ、本当1年間かけて、毎週、毎月とかのスタンスで1回、2回、委員会を開くっていうやり方やられてたので、熊谷委員が言われるように、研究テーマをぼんぼんぼんぼんやっていって、事業評価の評価も参考にして、政策提案につなげるっていうやり方のほうが、今回の話を聞いてたら、その方がスマートなのかなっていう、事業評価は事業評価、政策提案は政策提案っていう軸で、2本の軸で、ちょっと委員会の数は増えますけど、活動されたほうがしっかりとしたものが、政策提案もできますし、予算要望するのであれば、データに基づいた、また実際の状況に基づいた政策提案につながるのではないかと。そうすれば実現性が高いものになるんじゃないかなとは感じております。

○委員長（棚町 潤君）

今いろいろお話をいただいて、2本の軸でやったほうがいいんじゃないかっていう意見をいただいたかなと思っていますけど、そうすると、事業評価と並行してやるのか。それとも事業評価を受けた後に予算提案としてやるのかっていう2つのやり方があると思うんですね。

並行してやるということになると、事業評価の内容とは関係なく、やっていくということになります。

事業評価の後にやるっていうことになると、事業評価の項目をなるべく反映した後のほうがと思うんですよ。

ということは、どちらを選択するかっていうことだったと思うんですけど、僕は一応、事業評価の内容も踏まえて、次年度の予算要望につなげたいなと思っていたので、こういうきゅんきゅんなスケジュールを組みましたけど、こう並行して、別で考えていくっていうなら、全くスケジュールは変わってくるわけになるんですけど。

熊谷委員。

○14番（熊谷隆男君）

僕は、そんなに委員長と違っと思うとらんけどもさ、事業評価をやった後に、これはさっきの柴田委員が言うような話になるわけやけど、これは、これなら予算提案に結び付ける、予算提案は別にあるとしたとして。

今、予算提案は別で、事業評価もっていって、これどうしていくなっていうことってさ、これ難

しいと思うよ。必ず、ただ出すのが新年度の次の次年度の予算に反映をさせるということで、慌てる部分があったわけやけど、そこさえ飲み込んでもらえれば、逆のことを言えば、半年ぐらいで答えが出なければ、次の委員会でメンバーが代わった後も継続審査にしてくれればええわけやけども、事業提案はね。それぐらいのスパンの予算提案、政策提案っていうことであればいい。

もう1つ言えることは、それを別にするということは、新規政策っていうこともあるわけよね。こういう政策をやったらどうやと。過去のあるものも変えて、調査してやりなさいって、予算決算のところは外せるかもしれんけども、そういうものも含めると、政策提案ということで出すとすればよ、予算編成提案ならまた別かもしれん。

ただ、予算編成権はないんやからね、提言するだけのことで、何も言うことを聞く必要がないわけやから、政策提案で仮に言うとしたら、各委員会がこういうことやから、この事業を新しくやった、こういう事業をやったらどうやとか、そういうことも出せるわけやもんで、それを政策提案ととらえるものなら、まずは事業評価をやって、市長にこれを評価を出して、それでどうです、これはこんなふうでいいと思いますかっていって言うてもらわね、委員長から。こんなばかげたことに金使っちゃって、あんたって。それでお答えは、それについて、この評価についての答えをもらえええと思う、評価に対して。

今度、政策提案に関しては、そこから出てくるもよし、逆のことを言えば、別の事業なんやから、やる作業なんやから、政策提案については、新規政策をするのに、予算計上を挙げなできひんとか、そういうことであれば、予算決算やし、委員会でやれる政策提案をやるということをいつにもってくるのかというのは先の話で、提出するのを年明けにするのか、期末にするのか、そのときにするというぐらいのスパンでいいのではないかなというのを予算決算が中心となってやってくれば、話が進みやすいのかもしれないと思うところです。

○委員長（棚町 潤君）

ちょっと時間も1時間になってきましたし、ちょっと一度、持ち帰って検討させていただきたいなと思っているところですけど、今のお話やと、特に9月という締め切りを切らずに、熟慮した上で、政策提言をしたほうがいいんじゃないかということだったと思いますが、そういった方向で進もうってということで考えたときに、何か皆さんからそれに関して御意見あったりしますか。

2つを分ける、2つの軸に分ける。

スケジュールもちょっと見直して、もう少し調査、研究の時間を深く設けるっていうことですね。

いや、2軸になるので、多分もう1本やらないかんことが増えるっていうことになりますけど。

○14番（熊谷隆男君）

この事業評価をやり始めるときも、本当に新しいことに取り組むわけで、研究もしたけども、やっぱりその当時で言うと、それを起こすのに結構大変やったわけよ。

ほんで、これに予算決算委員会は後づけなんやな、後で予算決算常任委員会ができたわけよ、事業評価の後に。予算決算が担うことになったわけやけど、やっぱり全員でやる大事な委員会やもんで、事業を、例えば事業評価の部分を逆に前倒しにして間置いてもいいし、予算決算のほうが大事、

予算のほうが大事ということであれば、また1つの軸を大きく作ったって、どうってことないと思う。

ほんで、それを例えば形づくるのに、3月の予算のときに、議会の折に、では報告のように、提言を言うと、議会で発表すると、委員長報告で。もしくは12月でもええんやけど、そういうものを、スケジュールを作っちゃうっていうのかな、この予算決算の役割というものを。そういうことの変わり目が来とるのかもしれないと思うわけよ。前は常任委員会から出たやつを副議長があれやなかったかいな、昔は。事業評価自体が。この予算決算ができたもんで仕切つとるようになってきたわけやけども。

ほんで、委員会から出したやつをまとめるのが議運か副議長かな、どっちかが昔やりよった。

ほんで、それを取りまとめていたものが予算決算委員会になったもんで、仕事自体を作る事業評価自体はその前からできとって、これを作るときには、何でこんなやつやらなんなんっていうところのこういう議論があって、形がああいうふうになっていくんやけども、あれでは本当に3月から9月までの活動になっちゃうわけ、4月から9月と言ったら、予算決算の事業評価で終わっちゃうわけ。そういう意味で言えば、政策提言、予算審議というようなイメージの工程を今ここで作ればね、来年以降もこれ仮に言えば、変更になってくるかもしれないけど、動いていくもんで、わざわざ事業評価と引っつけなくても、事業評価やったものが必ずとか、そんなようなことやなくて、それも可だし、新しい提案っていうやつを予算決算委員長、副委員長で1回策定してくれたらどうや。おれはそう思うわな。

ほんで、これをみんな、ある程度みんなの意見と調査、研究ができるのを各委員会にお願いをするでもええし、予算決算全員でやるでもええし、そういう仕組みを作ってくれと、議論ができて、深い、深掘りできた調査、研究のもとに提言ができるんやないかなと。そのほうが何となく、こう実があらへん。中の内容。

○委員長（棚町 潤君）

ちょっと今2軸にするとか、いろいろと大幅なスケジュールの変更にもなってきますし、考え方ちょっともう1回考えなあかんって言うところになっていますので。

○14番（熊谷隆男君）

議員は1月になったら仕事が終わって、3月ぐらいまでは眠つとるって言われてて、もう委員長も年内に一生懸命やると、1月も2月は、もう次のことを考えとってって言って、嫌みを言われた覚えは、もう何回も言われた。確かにそうやで、やっぱり1月、2月までしっかり働くっていう意味では、そこまで使って、議員活動や議会活動やるっていうのもいいとおれは思うんよね。あれをやっても次3月には委員長代わつとるんでな。

○12番（成瀬徳夫君）

ちょっと聞きたいことあるんだけどさ、このスケジュールでさ、このテーマの設定をやってくれているんだけど、この市民の団体と聴取するって、どうやってやるの、これ。どこでどうやってやるの。さっぱり分からんのやけど。もう5月、来月になるんだけど。

○委員長（棚町 潤君）

一応これは最初の予定では、全委員会でやる予定だったんですけど、テーマが決まっていますので、各テーマに関して、関係のある団体だったり、市民だったりと話をして、意見聴取する時間を設けたいと思ひまして、この5月に予定をしている。

○12番（成瀬徳夫君）

だけど、もう5月っていうのは、もうそこと接触できないよ。

○委員長（棚町 潤君）

ほんで、5月だけじゃなくて、6月も7月も踏まえて検討はしていくんですけど。

○12番（成瀬徳夫君）

これ本当に、どこと、どこでやるのということをさ、具体的に決めていってもらわないと、どうするんだっていう話になってしまうんで、その辺まで具体的にちょっとさ、設定してもらわないと、議員として動きが取れんと思うよ。委員長は確かにやらないかんということは分かるんだけど、だから議員が動こうとしたら、やっぱりこの辺、この辺でやりたいと、何日の日にどこどこでやりたいっていう話をもう具体的に作ってくれないと。

○委員長（棚町 潤君）

予算決算委員会のケースで考えると、今ここでテーマが決まらん段階で、ちょっとこれできない。

○12番（成瀬徳夫君）

だからその辺も申し訳ないけど、各委員会のほうで決めてもらってやっていかないと、これ前へ進めなくなっちゃうのではないかな。

○16番（柴田増三君）

いや、各委員会ではもう決まったよね。

○委員長（棚町 潤君）

決まっていると思っていましたけど、テーマは。

○5番（柴田幸一郎君）

うちの委員会は、こことこっていうことは、もう話しとるんでいいんです。

○11番（小木曾光佐子君）

執行部に聞き取るって言ってなかった。

○委員長（棚町 潤君）

はい、そうです。1つ。

○5番（柴田幸一郎君）

市民とか団体とか、そういうのじゃなくて、うちの委員会。

○委員長（棚町 潤君）

とりあえず、市民、団体と言うより、聴取だけ。

○5番（柴田幸一郎君）

そうやもんで、まず現場の人に聞くっていうことですよ。現場の方に聞く。うちは現場の方に聞

く。

○委員長（棚町 潤君）

それは今の制限がかからんようにこういう書き方をさせてもらっています。市民団体と話がした
いって言われた委員長もいらっしゃいましたし、なので全体の中でということで、こういう書き方
をさせてもらっていますけど。

○11番（小木曾光佐子君）

それこそ、もう全部含めて面倒見とるみたいな感じやね。予算決算が全部ひっくるめて面倒見て
る。

○委員長（棚町 潤君）

いやいや、そんなことはないですけど。

○11番（小木曾光佐子君）

そういうふうにしちゃうと大変なんだとさっきから言ってみえるわけよね、各常任委員会にきち
っと振るべきで、やってもらうことはやってもらうことが大事。

○委員長（棚町 潤君）

それは一番最初に思ったことでした。予算決算がやり過ぎちゃあいかんというのは。

○14番（熊谷隆男君）

新しい試みであれやけどさ、普通の、予算決算の常任委員は別にしても、通常の常任委員会やと
さ、いろんなことが起きるわけ、テーマ決めて、何も起こらん中で、そのテーマに沿って1年って、
なかなか難しいて、例えば自分事で言えば、新丸山ダムが遅れるっていうのは、急に出てきたわけ
よ。そうするときは、あれに伴って、観光の基軸にするようなことを第7次総合計画で言っとってや
な、それどうなのって、そんなの関係なしに、ちゃんとやるのかと、この10年で。新丸山ダムでき
るの10年以上先やもんで、おれ死ぬころやもん。本当20年、十何年待たな。それはそれで考えると
さ、それやってほしいわけよ、委員会で。本当のことを言うと。

いや、それで何が起きるか分からんので、テーマに沿ってばっかりやっとな。

○委員長（棚町 潤君）

見合うかっていうのは、やってみんと分からんね。

今いろいろ御意見頂戴しましたので、時間も時間になってきましたので、2軸に分けるという方
向性で考えさせてもらうということと、あと事業評価の内容についても、今のお話ですと、各委員
会の意見をしっかりと聴取したほうがいいというお話だったのかなと思いますが。いいですかね。

○9番（渡邊康弘君）

過去にも委員長、予算決算の委員長が常任委員会でこうテーマに合わせて何点も挙げて、協議し
て、挙げたこともありますので、うちの委員会としては、すぐに委員会開催しますので、それに合
わせて。準備させていただきますので、大丈夫です。

○委員長（棚町 潤君）

じゃあ、そのような格好で考えていきますので、スケジュール、ちょっと組み直して、軸も作り

直しますので、またゴールデンウィーク明け、5月中旬ぐらいにまた委員会開かせてもらおうと思いますので、そこでまた対象事業についても、お示しさせてもらおうと思いますので、そういうことで。

○14番（熊谷隆男君）

まずは、ヒアリングぐらいは普通で行けるんじゃない。その先の扱いは別としても。

○委員長（棚町 潤君）

じゃあ今回はこれにて閉会とさせていただきますけど、ちょっと初めてやることなので、また皆さんに御意見頂戴しながらやっていきたいと思いますので、よろしく願いしたいなと思います。

最後に、これで委員会閉会したいと思います。

お疲れさまでした。

午後2時15分 閉会